

■ 第2次都心まちづくり計画：平成28年(2016年)5月 札幌市

- 「都心まちづくり計画」(平成14年度策定)と「さっぽろ都心まちづくり戦略」(平成22年度策定)を受けて、都心の象徴的な空間の創出やエリアマネジメントの推進など札幌都心において新たな都心の魅力発信によるにぎわいの創出を図ってきました。一方その後の社会情勢の変化に対応するため、上位計画の見直しが行われており、都心まちづくり計画においてもこれからの20年間における都心のまちづくりの指針とするための見直しが行われました。
- 第2次都心まちづくり計画では、都心まちづくりの骨格構造やターゲットエリアなどの位置づけが見直されました。
- 本計画の対象討区域は、「都心まちづくりの骨格構造」として既存計画より位置づけが一層強調された札幌駅交流拠点を含むとともに、北海道・札幌の経済発展をけん引する「都心強化先導エリア」、創成川東西市街地の連携と回遊・交流を高める「創成イースト北エリア」が該当します。

○都心まちづくりの目標

- ・ 国内外から活力・投資を呼び込む札幌都心ブランドの確立
- ・ 魅力的な都心のライフスタイル・ワークスタイルの実現

○位置づけ

【都心まちづくりの新たなターゲットエリア】

都心強化先導エリア

高機能オフィス環境の整備やエネルギーネットワークの形成等により国内外からヒト・モノ・投資を呼び込み、北海道・札幌の経済発展をけん引する都心まちづくりを先導するエリア

創成イースト北エリア

多様な生活支援サービスや起業環境の強化とともに、地区の歴史的なストックを最大限に活用し、創成川東西市街地の連携と人々の回遊・交流を高めるエリア

【都心まちづくりの骨格構造】

札幌駅交流拠点

- ・ 広域的な交通ネットワークが結節する札幌の玄関口にふさわしい広域交流を先導する拠点

にぎわいの軸：駅前通

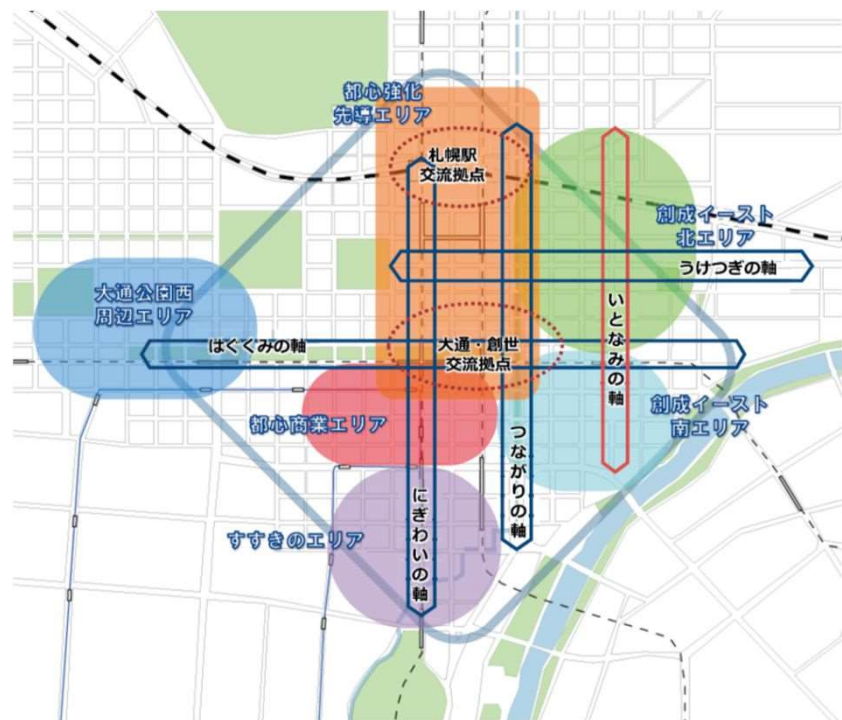
都心のにぎわい・活力を象徴する沿道の機能・空間の再編と、都心強化と連動する軸双方の起点からの高質化

つながりの軸：創成川通

広域からの都心アクセスを支えるとともに、豊かな環境を活かした市民の交流と、つながりの創出

いとなみの軸：東四丁目線

創成東地区の職・住・遊を支える多様な機能の複合化と創成イースト南北の回遊性の向上を支える通りの形成



都心の骨格構造

■ 都心エネルギーマスタープラン：平成30年(2018年) 3月 札幌市

- 「都心エネルギープラン」は、都心のまちづくりを支える環境エネルギー施策を示すものであり、「第2次都心まちづくり計画」と一体的に展開することで、まちの魅力向上と市民生活の質の向上を図り、世界都市にふさわしい札幌らしい都市像を都心部で先導的に実現し、札幌市さらには北海道全体の持続的な発展へとつなげる役割を担います。

○ 都心エネルギープランの目標

まちの更新に合わせて、都心部の建物から排出されるCO2を削減することを目指します。
CO2削減目標については、「2050年までに建物から排出されるCO2排出量を2012年比で80%削減」と設定します。

○ 基本方針

『低炭素』、『強靱』、『快適・健康』の3つを、環境エネルギーに関する取組の基本方針として定め、取組を通じて都心からイノベーションを創出していきます。

低炭素

- ・建物建替時等の省エネビルへの誘導
- ・コージェネを核としたスマートなエネルギーの面的利用の拡大
- ・地域新電力による再生可能エネルギー電力の利用拡大

強靱

- ・分散電源比率を増やし非常時の自立機能を強化
- ・非常時の避難・一時滞在所に対する電力・熱・水の供給継続
- ・エリアマネジメントによる建物と公共空間等が連携した防災対策の推進

快適・健康

- ・健康増進に向けた歩きやすいまちづくり
- ・札幌らしい季節感を感じる屋外空間の充実に向けた対策
- ・四季を通じて快適に過ごせる屋内空間の創出への貢献

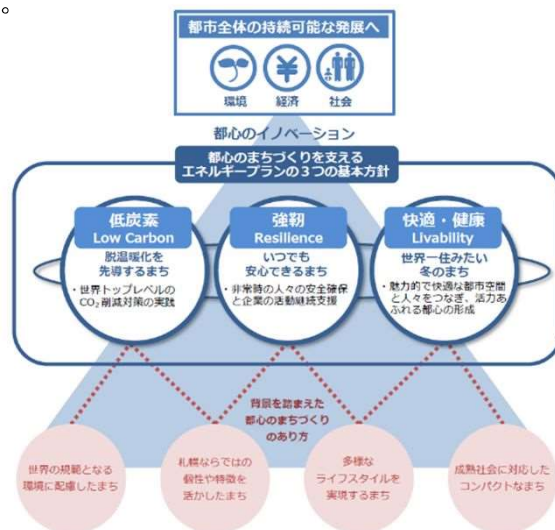


図 2-2 取組の基本方針

取組の基本方針

○ 取組を推進するエリア区分

都心強化先導エリア

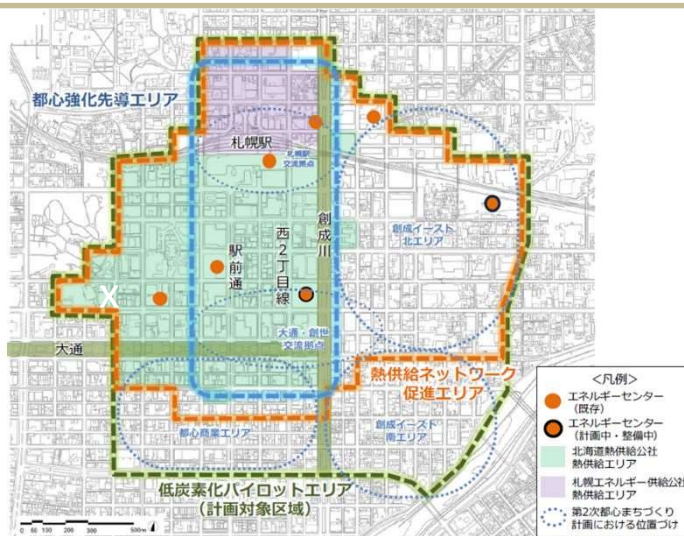
第2次都心まちづくり計画で設定されたエリアであり、業務機能が集積し、北海道・札幌の経済活動や行政機能を支えるエリアとして、**先進的な取組を積極的に進めるエリア**

熱供給ネットワーク促進エリア

業務、商業、住居など多様な機能がみられるエリアであり、既存の地域熱供給の供給エリアをベースとして、**将来的に面的なエネルギーネットワークを構築するエリア**

低炭素化パイロットエリア

計画対象区域全域において、小規模な建物も含めて都心にふさわしい先進的な取組により**低炭素化を推進するパイロットエリア**



計画対象区域とエリア区分

■ 札幌駅交流拠点再整備構想案：平成24年(2012年) 3月 札幌駅交流拠点再整備構想案策定委員会

- 札幌の国際競争力を高め、かつ都心構造の変化や交通機能強化に対応するため、道内最大の交通結節点にふさわしい交流拠点の形成することを目標に、有識者も含めた委員会により、札幌駅交流拠点再整備構想案が提言されました。
- 多様な関係主体がその将来像を共有化し、共同の取組を進めるための指針として、札幌駅交流拠点の位置づけ・役割と再整備の基本方針が取りまとめられました。

○ 策定の目的

道都の玄関口にふさわしい交流拠点形成に向け、関係主体がその将来像を共有化し、協働の取組を進めるための**基本指針案**

○ 札幌駅交流拠点の役割・拠点形成の方向性

【札幌駅交流拠点の位置づけ・役割】



【札幌駅交流拠点再整備コンセプト】

人間都市“さっぽろ”の起点
～人・モノ・情報・ビジネスの
交流により創造性と活力を育む～

○ 札幌駅交流拠点再整備の基本方針

「人」魅力的で質の高い人中心の空間の形成

- ・札幌駅南口街区（北5西1～北5西4街区）の機能強化・魅力向上
- ・協調的呼応空間の形成
- ・まち歩きの基軸回廊の形成
- ・魅力的なパブリックライフの展開

「交通」東アジアにおける北の一大交通拠点の形成

- ・北海道新幹線を含めた多様な交通モードによる広域連携の強化
- ・道内の空港・港湾・他都市とのアクセス機能の強化
- ・再整備効果等を都心内に波及させる都市基盤の整備
- ・多様な交通モードを結びつける交通結節機能の向上

「環境」環境首都・札幌の実践空間の形成

- ・豊かなみどりを備えた拠点の創出
- ・環境低負荷型のまちづくりの先駆的な展開
- ・次世代型都市基盤「スマートエネルギーネットワーク」の形成

「創造」産業や文化を創造する交流の場の形成

- ・産業創造を支える高次都市機能の充実
- ・札幌・北海道の価値をPRする情報発信機能の充実
- ・産業創造のための交流・連携の実践



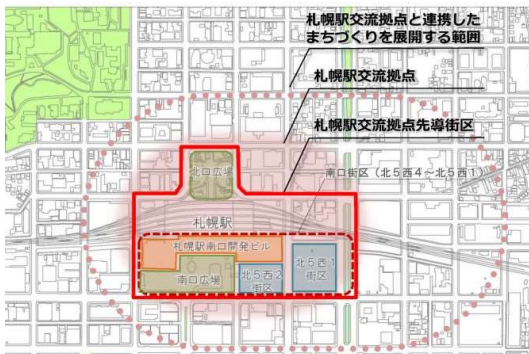
目指すべき方向性のイメージ（長期展望）

■ 札幌駅交流拠点先導街区整備基本構想：平成29年(2017年) 2月 札幌市

- 札幌駅交流拠点のなかでも、主要交通施設や関連開発が見込まれる、JR札幌駅、南北の駅前広場、北5西1・北5西2街区を含んだ範囲を、札幌駅交流拠点のまちづくりを先導する街区として位置づけました。
- 先導街区の整備や関連事業に対する市の基本的な考え方を整理するため、札幌駅交流拠点先導街区の役割を位置づけ、その実現に向けた取組の目標と整備の指針となる整備方針を定めました。

○策定の目的

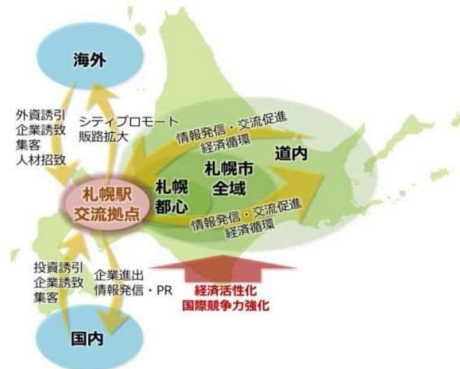
- ・ 札幌駅交流拠点の先導街区の整備や関連事業に対する市の基本的な考え方を整理
- ・ これを基に、今後策定予定の（仮称）札幌駅交流拠点まちづくり計画や、関連事業の整備計画等について、関係する事業者や行政機関との検討を行う



▲札幌駅交流拠点先導街区整備基本構想の対象範囲

○札幌駅交流拠点先導街区の役割

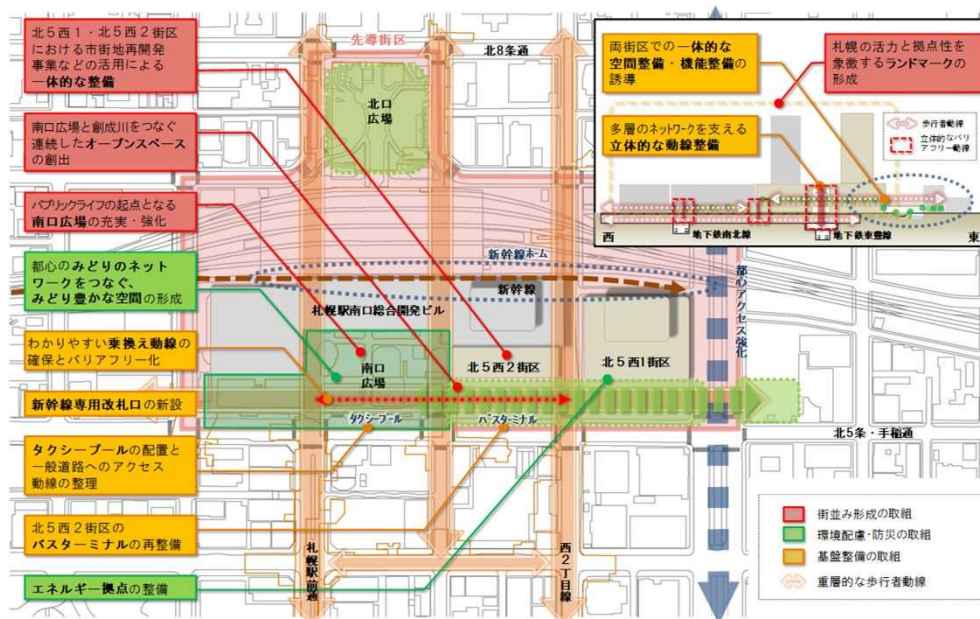
1. 世界とつながる国際ビジネス・観光促進のハブ
2. 都市と自然が融合した、札幌・北海道のシンボル
3. 都心の回遊・にぎわいの起点となる顔



○取組の目標

- 国際的な交流拠点にふさわしい札幌・北海道を象徴する街並み形成
- 国内外からの投資を促進する国際ビジネス・観光ハブの形成
- 環境首都・札幌をリードする環境・防災拠点の形成
- 国内外との連携・交流を促進する利便性の高い基盤整備の推進

○実現に向けた取組のイメージ



■ 札幌駅交流拠点まちづくり計画：平成30年(2018年)9月 札幌市

I 目的と位置づけ

1. 背景と目的

■ 背景

- ・第2次都心まちづくり計画（平成28年）において、北海道・札幌の国際競争力をけん引する広域交流の先導的な拠点として札幌駅交流拠点を位置づけ
- ・海外からの観光客増加、冬季オリンピック・パラリンピック招致
- ・北海道新幹線札幌開業（2030年度予定）を見据え、再開発の動きが活発化する一方、低未利用の街区も存在

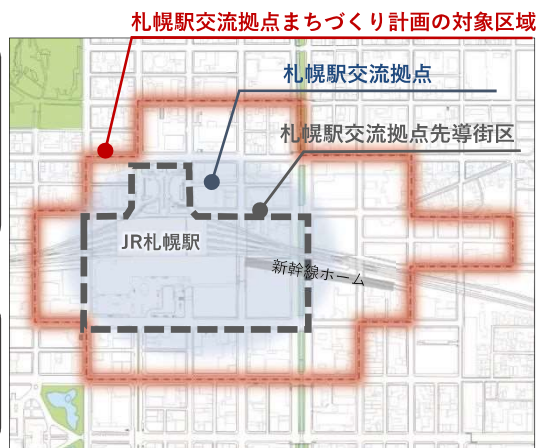
■ 目的

- ◆札幌駅交流拠点の再構築へ向けた目標・取組の方向を明確にする
- ◆市民・企業・行政等がまちづくりの目標・取組の方向を共有することで、今後のまちづくりを協働して推進する

2. 位置づけ

- ・「札幌市まちづくり戦略ビジョン」や「第2次都心まちづくり計画」等の各種上位計画に即す
- ・平成24年の有識者委員会による提言及び平29年2月策定の「札幌駅交流拠点先導街区整備基本構想」を踏まえる
- ・目標年次は、北海道新幹線札幌開業（2030年度予定）とする
- ・市街地総合再生基本計画（国交省所管・交付金交付対象）として策定する

3. 対象区域



II 目標と基本方針

1. まちづくりの経緯

1978年 札幌駅付近高架化工事着工 札幌駅バスターミナル開業	1988年 鉄道高架化（一次開業） 地下鉄東豊線開業	1993年 札幌駅南口土地区画整理事業 都市計画決定・施行認可	2003年 札幌駅南口開発ビル完成	2012年 北海道新幹線（新函館（仮称） ・札幌間）工事実施計画認可 【2030年度末開業予定】
---------------------------------------	----------------------------------	---------------------------------------	----------------------	---

札幌駅周辺地区整備構想（第一次）
(1979年3月)

札幌駅周辺地区整備構想（第二次）
(1992年5月)

札幌駅交流拠点まちづくり計画
(2018年9月)

2. 目標と基本方針

目標

1 北海道・札幌の国際競争力をけん引し、その活力を展開させる「起点」の形成

第2次都心まちづくり計画における札幌駅交流拠点の位置づけを踏まえ、道都札幌の玄関口にふさわしい空間形成と高次都市機能・交通結節機能の強化を図る。

2 北海道新幹線札幌開業を見据えた再整備の確実な推進

北海道新幹線札幌開業（2030年度予定）の効果を高めるため、道内外からの来訪者の増加も見据えながら、札幌駅交流拠点の再整備を確実に推進する。

基本方針

街並み形成

北海道・札幌の玄関口にふさわしい、魅力的で一体感のある空間の形成

基本方針1

基盤整備

多様な交流を支える、利便性の高い一大交通結節点の形成

基本方針2

基本方針3

機能集積

多様な交流を促進し経済を活性化する都市機能の集積

基本方針4

環境配慮・防災

低炭素で強靱なまちづくりの推進

エリアマネジメントによる取組の推進

III 現状・課題と取組の方向

1. 街並み形成

現状・課題

- ・北海道の玄関口としてにぎわい空間や滞留空間を充実させる必要がある
- ・札幌の開拓の象徴である創成川に面した東西市街地の一体的な街並みやにぎわいの創出が求められる
- ・積雪寒冷都市の気候特性を踏まえた快適な都市空間の充実を図る必要がある

取組の方向

(1) 道都の玄関口にふさわしい風格とにぎわいのある顔づくりを進める

- ①新幹線駅施設と周辺開発の連携によるまちづくり
- ②パブリックライフ※を実現する南口駅前広場の再整備
- ③地下と地上を結ぶ結節空間の充実
- ④南口駅前広場と創成東地区との結びつきを高めるオープンスペースの形成
- ⑤駅とまちが一体的に感じられる景観の形成

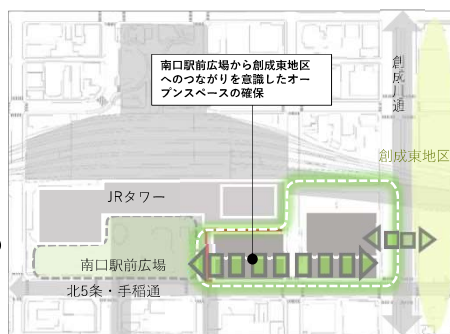
(2) 歩行者中心の回遊性の高い空間を形成する

- ⑥都心のにぎわいと活力を象徴する骨格軸・展開軸の空間形成（駅前通、創成川通、東四丁目線）
- ⑦回遊性を高める歩行者空間・辻広場の形成
- ⑧界わい性が感じられる多様な通り抜け空間の形成

(3) 北海道・札幌の気候特性に対応した空間を形成する

- ⑨1年を通じて快適な屋内公共空間の形成
- ⑩質の高い地下歩行者ネットワークの形成

※パブリックライフ：働く、学ぶ、遊ぶ、住むといった基本的な都市の生活を支える交流・社会活動。言葉を交わす直接のやり取りだけでなく、人と人、人と都市空間との間の豊かなコミュニケーション活動。



▲南口駅前広場からの連続した空間確保のイメージ

2. 基盤整備

現状・課題

- ・新幹線札幌延伸に対応した交通基盤の再整備が求められる
- ・札幌駅南口のバス乗降場がバスターミナルのほかに路上にも分散している
- ・バスターミナル内の通路幅・待合空間が狭い
- ・地下鉄・JR在来線・バス等の主要な交通機関を結ぶ乗換経路において段差等があり、バリアフリー化が図られていない
- ・路上駐停車や駐車場入庫待ち車両等による交通混雑が発生している

取組の方向

(1) 新幹線駅施設とまちをつなぐ交通基盤整備等を進める

- ①新幹線駅につながる歩行者動線の確保
- ②創成東地区との連携の検討

(2) 各方面と札幌駅とのアクセス性を向上させる

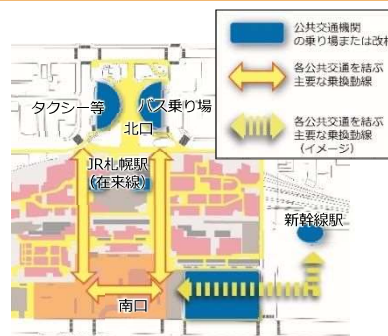
- ③都心アクセス強化（創成川通の機能強化）との連携

(3) 利便性の高い交通結節機能の充実を図る

- ④バスターミナルの再整備
- ⑤新幹線需要を見据えた観光・団体バス乗降場の確保
- ⑥タクシー・一般車乗降場の配置

(4) 人のにぎわいの形成に配慮した交通環境を実現する

- ⑦誰にでもわかりやすく、バリアフリーに配慮した歩行者動線の整備
- ⑧駐車場・駐輪場の適切な確保



▲歩行者乗換動線のイメージ（上：地上、下：地下）

3. 機能集積

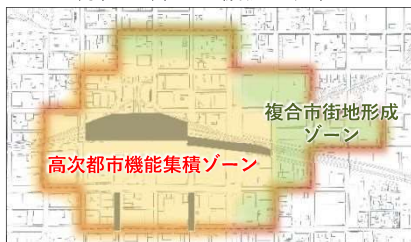
現状・課題

- ・ 街区ごとの特性を活かした機能集積が求められる
- ・ 国際水準のホテルや高機能オフィスが不足
- ・ 駅利用者や観光客等に対する情報発信機能や案内窓口の強化が必要
- ・ 札幌駅北口地区、創成東地区における居住者や就業者の生活を支える機能の充実が求められる

取組の方向

(1) 街区ごとの特性を踏まえた都市機能の集積を図る

① エリア特性に合った機能の配置



高次都市機能集積ゾーン
 ◆ 新幹線・バスターミナル等と直結する広域交通結節点として、札幌・北海道の国際競争力をけん引し、観光・交流機能やビジネス機能等の核となる高次都市機能の集積とそれを支える機能の導入を図るゾーン

複合市街地形成ゾーン
 ◆ 広域交通結節点に近接した利便性を活かしながら、居住者や就業者の生活を支える多様な機能の導入を図るゾーン

(2) 新たな交流・活力を生み出す都市機能の集積を図る

- ② にぎわい・交流機能の強化
- ③ 宿泊機能の多様性の向上
- ④ ビジネス環境の充実
- ⑤ 観光・産業振興に資する機能の強化
- ⑥ 起業支援機能の創出



▲ 多様な案内・サービスにより来街者をサポートする観光案内機能イメージ
 ▲ まちの様々な情報発信を行うシティギャラリーのイメージ

(3) 多様なワークスタイル・ライフスタイルに対応した都市機能の集積を図る

- ⑦ 居住機能の適正な立地（複合市街地形成ゾーン）
- ⑧ 仕事や暮らしを支える機能の形成

4. 環境配慮・防災

現状・課題

- ・ 地域冷暖房ネットワークが整備されている
- ・ 地下歩行空間は一時滞在施設としての機能も有している
- ・ 環境負荷低減への対応を強化する必要がある
- ・ 災害時の滞留者等への対応を強化する必要がある

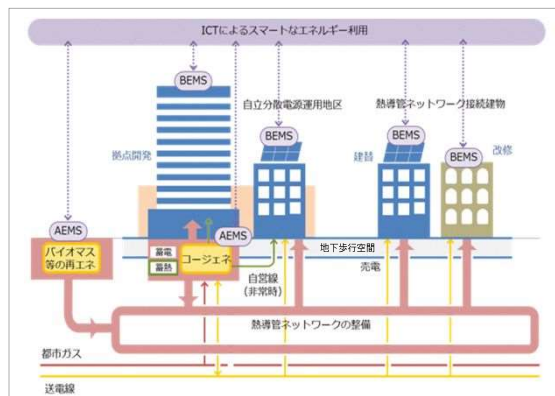
取組の方向

(1) 低炭素で持続性が高く、みどり豊かなまちづくりを実現する

- ① 省エネ化への誘導
- ② スマートなエネルギーの面的利用の拡大の検討
- ③ みどり豊かで快適な屋外・屋内環境の形成
- ④ モデル都市としての情報発信

(2) 強靱で安全な都市環境を形成する

- ⑤ 業務継続性の向上
- ⑥ 安全な都市環境の形成

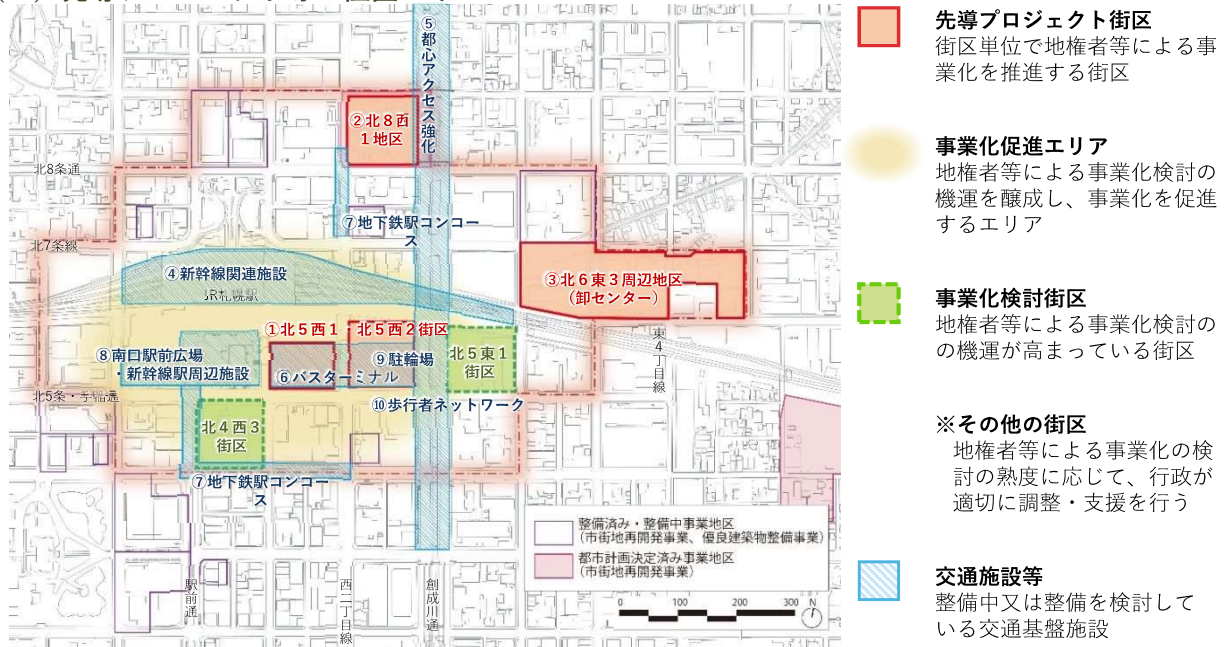


▲ エネルギーの面的利用のイメージ
 (出典：都心エネルギーマスタープラン)

IV 計画の推進

1. 先導プロジェクト等の推進

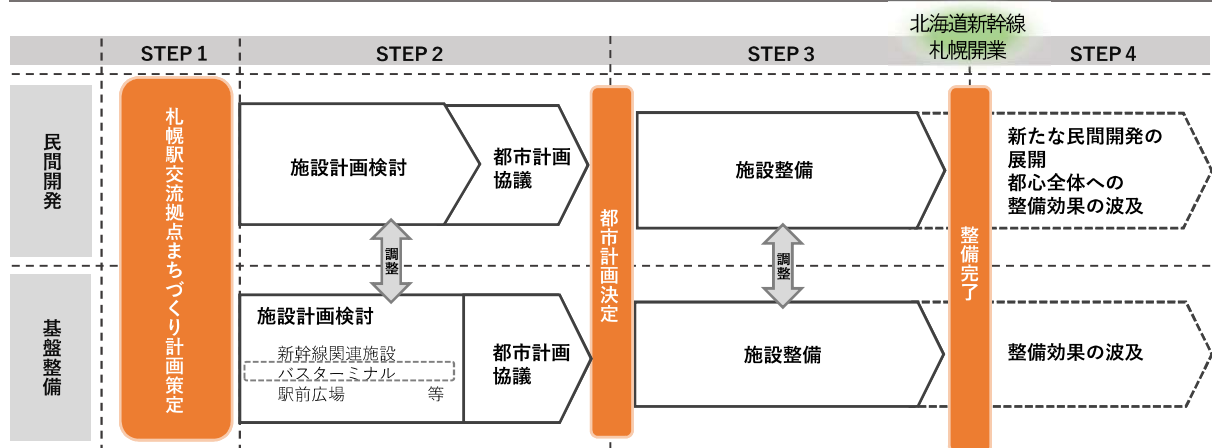
(1) 先導プロジェクト等の位置づけ



(2) 事業化にあたって重視すべき視点

- ①民間施設と都市基盤との連携確保
- ②各種事業手法等の適切な活用
- ③計画の柔軟な推進

2. ロードマップ



3. 取組体制

(1) 基本的な考え方：官民協働によるまちづくりの推進

民間→本計画を踏まえ、他の事業者等と適宜協力しながらまちづくりを主体的に推進
行政→民間事業者によるまちづくりの支援・調整と必要に応じた基盤整備

(2) 当面の取組体制：まちづくり協議会の継続

まちづくりの動向の情報共有等を今後も継続

(3) 中長期的な取組体制：エリアマネジメントの強化

既存のまちづくり組織とも連携しながら、エリアマネジメント組織のあり方等について検討
公共空間の有効活用によるにぎわいづくり等を持続的に展開

■ 札幌市景観計画：平成29年(2017年) 2月 札幌市

- 札幌の景観形成の総合的な指針として、理念や目標、方針等を明らかにするとともに、その実現に向けた取組などを定めるものです。
- 今後、この計画を市民・事業者・行政等が共有し、相互に連携して、持続的かつ計画的に良好な景観の形成に向けた取組を推進することを目的とします。

○景観形成の理念

北の自然・都市・人が輝きを織りなす美しい札幌の景観を創り上げる

○目標

札幌固有の景観特性と街の成り立ちを尊重し、秩序と調和のある景観づくり

札幌全体の景観特性を踏まえることはもとより、地域ごとの街並み形成の履歴や現況を読み解き、これらに対して違和感のない、つり合いのとれた景観づくりを目指します。

地域の個性が際立ち、多彩な輝きを放つ景観づくり

地域ごとに異なる街の歴史や暮らし、街並みなどの特長を最大限に生かし、それぞれの地域で魅力的な景観を創出することが大切です。地域の魅力ある景観づくりを積み重ねることで、札幌全体の景観の魅力を高めることを目指します。

多様な主体がつながり、持続的に取組を重ねる景観づくり

良好な景観を形成するためには、市民、事業者、行政等が関わり合いながら取り組むことが欠かせません。札幌全体の景観を魅力的にするため、多様な主体が絶えず取組を積み重ねていくことを目指します。



札幌駅前道の街並み



郊外の住宅地(青田区)



市民の手によるベンチ塗り替え(大通公園)

○特定の地区の特性を踏まえた景観形成の方針

景観計画区域の内、地区の特性を踏まえ、特に良好な景観の形成を図る必要がある区域を「景観計画重点区域」とします。

大通地区

都市形成の基軸となり、現在、業務地域と商業地域の間にある大通公園とその沿道地区

札幌駅南口地区

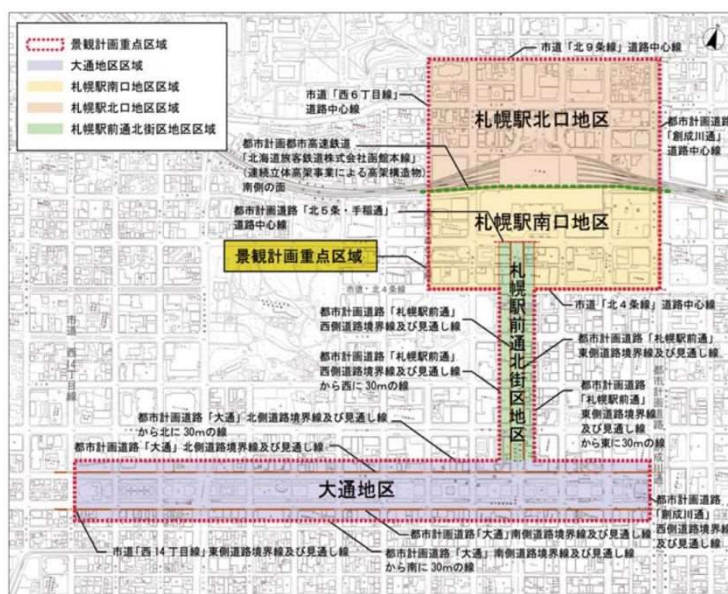
札幌の玄関口 JR札幌駅の南側一帯の商業と業務が混在する地区

札幌駅北口地区

札幌の玄関口 JR札幌駅の北側一帯の業務と住居が混在する地区

札幌駅前通北街区地区

札幌の玄関口 JR札幌駅と地下鉄3線が集中する大通駅の交通拠点をつなぐ札幌のメインストリートとその沿道地区



景観計画重点区域の区域

【景観重点区域：札幌駅南口地区】

○景観形成の方針

- ・ 緑豊かで四季の彩りにあふれる街
- ・ すべての人に開かれた、魅力的で活気とやすらぎのある街
- ・ 文化のかおり高い、美しく洗練された空間を共有できる街



札幌駅南口駅前の交差点付近



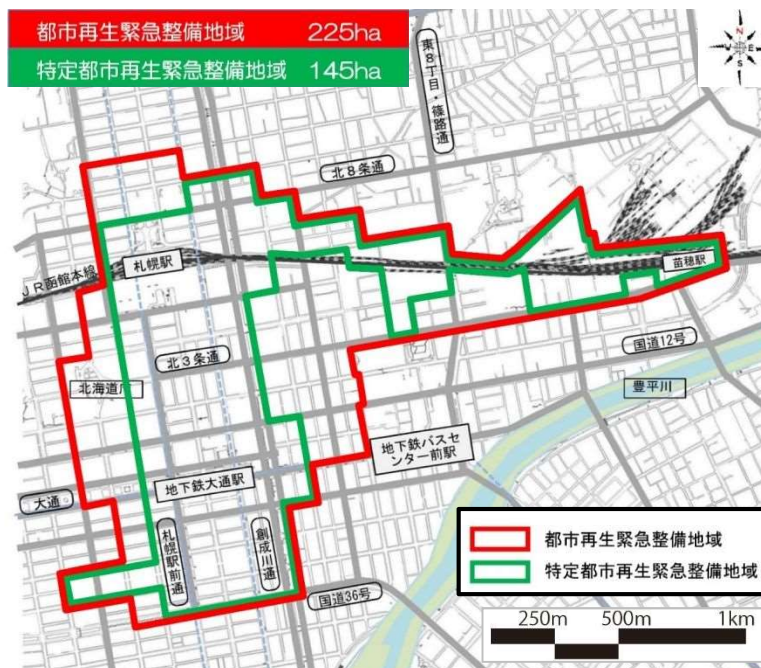
札幌駅南口駅前広場

○景観形成基準

広場の演出	○駅前広場は、活気とやすらぎに満ちた人の広場として、出会い・集い・語り・憩い・楽しむことができるよう演出する。	
建築物等	敷地・緑化計画	○駅前広場からの空間の連続性を重視し、歩行者の視線レベルにある建築物の低層部の開放感を演出し、ゆとりある歩行者空間を創出するよう、建築物等の配置に配慮する。 ○歩行者にうるおいとやすらぎを与えるよう、敷地内には植栽や花壇等を設け、緑化に努める。特に道路側のオープンスペースは、緑化修景に配慮し、建築物等との調和を図る。 ○街区全体に緑があふれるよう、オープンスペースの緑化の他、屋上や壁面等への立体緑化にも努める。 ○四季の彩りを演出するよう、植栽の種類や配置に配慮する。
	形態	○駅前広場からの広がり感を演出するよう、中高層部の圧迫感の軽減や、隣り合う建築物等とのスカイラインの連続性に配慮する。 ○駅前広場からの空間の連続性を図るよう、隣り合う建築物の低層部の軒高、壁面線、敷地際のしつらえに配慮する。 ○歩行者が楽しさとやすらぎを感じられるよう、低層部にはショーウィンドウ・カフェテラス・レストラン等の設置に努める。 ○歩行者が文化・芸術にふれられるよう、低層部にはギャラリー・モニュメント・オブジェ等の設置に努める。 ○低層部の開放感を演出し、閉店後でも歩いて楽しくなるようしつらえる。 ○歩行者空間は、四季を通してすべての人が移動しやすいよう、形態や材質・段差解消等に配慮する。 ○目新しさや話題性でデザインするのではなく、時間とともに建築物等の味わいを深め、社会環境の変化に対応できるようなデザインにする。 ○窓等のガラス面には広告物等を掲出しない。ただし、ショーウィンドウや掲示スペースとして計画的に確保されているなど、良好な景観を損なわないものは除く。
	外壁の色彩・材質	○外壁の色彩は、周囲との調和や、連続する街並みに配慮する。 ○外壁のアクセントとなる色彩は、面積を抑えた効果的な使い方を ○外壁の材質は、駅前広場や通りの質感・素材感との調和を心がけ、汚れが目立たない工夫をする。 ○なお、色彩は、別表3「色彩景観基準」に準じて行う。
	塔屋・附帯設備等	○駅前広場や通りから見えないように計画する。 ○縮小・集約化等を図り、建築物等と一体的になるよう計画する。 ○スカイラインを乱さない形状とする。
	夜間景観	○夜の歩行空間を演出する照明装置やショーウィンドウ等の活用により、昼とは異なる魅力的な夜間景観の創出に努める。
	仮設物等*	○仮囲いやバリアード等の工事用仮設物や仮設建築物等は、良好な景観を損なわないよう、設置場所・形態・色彩等に配慮する。 ○なお、色彩は、別表3「色彩景観基準」に準じて行う。
	自動販売機類	○自動販売機類は、建築物等と一体的になるよう計画する。なお、駅前広場や駅前通に面して設置しない。
	景観の維持管理*	○土地・建築物所有者等と行政は、協働でより良い景観の形成と維持管理に努める。

* 景観法及び札幌市景観条例に基づく景観形成基準

■都市再生緊急整備地域及び特定都市再生緊急整備地域の地域整備方針
：平成25年(2013年) 7月 都市再生本部



〈地域整備方針〉 (一部抜粋)

地域名称	整備の目標	都市開発事業を通じて増進すべき都市機能に関する事項	公共施設その他の公益的施設の整備に関する基本的事項	緊急かつ重点的な市街地の整備の推進に関し必要な事項
札幌都心地域	<p>札幌市の都心において、既存の都市基盤と世界有数な多雪寒冷の大都市という地域特性を活かし、人と環境を中心に据えた都心づくりを推進</p> <p>このため、札幌駅前通や創成川通の整備効果を活かし、都心の骨格軸や展開軸、交流拠点を基軸とする、歩いて暮らせる豊かで快適な都心の創造に向けた多様で高次の機能が複合した市街地を形成</p> <p>併せて、低炭素社会の実現を図るため、雪の冷熱エネルギーの活用等による、環境負荷の低い新たなエネルギー有効利用都市の実現を先導</p>	<p>○札幌駅周辺において、広域的交通結節点としての機能を強化するとともに、情報、サービス、交流機能等を充実・強化</p> <p>このうち、北口周辺では業務、居住機能等の複合市街地を形成</p> <p>○札幌駅前通沿道において、引き続き業務、商業、交流機能等を充実・強化</p> <p>○創成川通沿道において、商業、居住、宿泊機能等を充実・強化するとともに、多様な都市機能を創成川以東地区に波及させる交流機能を導入</p>	<p>○道路等と敷地内通路等の連携や広場空間の整備・活用により、災害時の避難路としても活用可能な地上・地下の重層的な歩行者ネットワークを充実・強化</p> <p>この際、多面的な活用が可能な敷地内空地等を確保</p> <p>さらに、中長期的には、人と環境を重視し、歩行者主体の交通体系について検討</p> <p>○札幌駅周辺において、北海道新幹線の札幌駅乗入や路面電車の札幌駅方面への延伸を見据え、交通結節機能を再配置</p>	<p>○地下通路との接続により一体的な地下空間を形成するとともに、建築物の低層部及び地下部に、にぎわいを演出する商業、サービス機能等を導入する都市開発事業を促進</p> <p>○敷地内空地の緑化等、緑豊かなまちづくりに寄与する都市開発事業を促進</p> <p>○自立・分散型エネルギー供給拠点の整備、冷熱・温熱等の供給ネットワークの活用、外気を活用した冷房等の省エネルギー対策等、防災性の向上や環境負荷の低減に寄与する都市開発事業を促進</p> <p>○まちづくり会社などによる、地域の価値向上を目指すエリアマネジメントの取組を推進するとともに、官民協働の都市開発事業を促進</p> <p>○大規模災害を想定した訓練の実施や災害時における一時退避場所のルールの策定など、ソフト対策を充実</p>
	<p>〔特定都市再生緊急整備地域〕</p> <p>優れたまちづくりを通じて世界都市となることを目指す札幌市の都心において、都市機能の集積・高度化、都市空間・エネルギー等のネットワーク形成、エリアマネジメントの展開を推進し、災害にも強く、国際的な活動の拠点にふさわしい市街地を形成</p> <p>併せて、これらの優れたまちづくりの展開をパッケージとして国内外に情報発信</p>	<p>○札幌駅周辺において、世界都市さっぽろの玄関口にふさわしい都市空間・都市景観を形成するとともに、交通結節機能を強化</p> <p>○札幌の目抜き通りである札幌駅前通沿道において、高い環境・防災性能を有する国際水準の業務機能を導入</p>	<p>○幹線道路及びそれを補完する道路の機能向上を図ることにより、空港や駅などの交通拠点とのアクセスを強化</p> <p>○環境にやさしく、災害にも強いまちづくりの実現に寄与するコージェネレーションなどの自立・分散型エネルギー供給拠点の整備、駅前通地下歩行空間に併設した熱導管収容施設の更なる活用、スマートエネルギーネットワーク化の検討など、低炭素社会・エネルギー有効利用都市のモデルとなるエネルギーネットワークを形成</p>	<p>○都心の回遊性を高め、都市の魅力向上やにぎわいの創出、防災性・安全性の向上に寄与する公共的空間等を整備する都市開発事業を促進</p> <p>併せて、オープンスペースのネットワーク化や、公共的空間を活用する取組を促進</p> <p>○都市開発事業単位、地区単位、都心全体等、各レベルに応じた重層的なエリアマネジメント体制を強化するとともに、まちづくり会社等の都市再生整備推進法人化を促進</p>